



ボランティア団体フェア
「サマボラ 2016！」
 ～あなたのチカラで誰かを
 支えてみませんか？～

July 6-7

7月6日(水)と7日(木)、南大沢キャンパス7号館スタジオにて、ボランティア団体フェア「サマボラ 2016！」を開催しました。この取組は、「夏休みにボランティアをしたい」という人や、「ボランティアに興味はあるけど、どんな活動があるのか、どれが自分に合うのかわからない」「一人で探すのは不安…」という人に対して、学内外の様々な分野のボランティア団体と直接出会い、話を聞く機会を提供することで、参加につながるきっかけをつくることを目的に開催しました。団体による「ブース出展」と、特別企画として、「熊本地震についての報告会」、「車いす・高齢者疑似体験」も実施しました。

この取組は、本センターの学生コーディネーターが主体的に企画・運営(内容の企画、ブース出展を依頼する団体候補の選定、広報活動、資料作成、受付、会場案内など)を行いました。

ブース出展

国際や環境、スポーツ、子ども、高齢者、障がい者、復興支援など、学外から9団体、学内から2団体、合計11団体の様々な分野のボランティア団体がブースを出展しました。全体で1日目90人、2日目31人の合計121人の来場がありました。

<出展団体>

主な分野名	団体名
学外団体	
子ども	八王子市立愛宕小学校 学校運営協議会
社会教育・障がい者	多摩市立永山公民館
高齢者	特別養護老人ホーム 絹の道 デイサービスセンター 鍮水
国際	NPO 法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター) 八王子国際協会
環境	認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK
スポーツ	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 代々木 fun ラン実行委員会
社会福祉・人権	スーパの会
学内団体	
復興支援	東日本きずなプロジェクト
子ども・福祉	SCOK



【参加者の声】

- * 団体の人から直接話を聞くことができ、ボランティアに興味ももてた。
- * ボランティアに漠然と興味があったが、どうすればよいか分からなかったところに、立て看板を見つけ、入ってみた。実際に話を聞いてみて、「誰かのために」が、同時に「自分のために」にもなるのではないかと感じ、俄然、参加意欲が高まった。
- * ボランティアの参加は初めてなので、このような機会が設けられていると分かりやすく、とてもありがたい。
- * まとめて多くの団体の話を聞くことができ、とても良かった。今回は時間がなく全て話を聞くことができなかったので、また開催していただきたい。
- * 実際に活動に行くことになった。

熊本地震についての報告会

この報告会は、学生コーディネーターのミーティングの中で、「夏休みに現地に行って活動したいと思っている人がいるかもしれない」「距離が離れているため、行くことが難しい学生にとっても、現状がどのような感じなのか知ることが大切ではないか」、「東京にいてもできることはないか」、「忘れないということが大切なのではないか」などの意見が出され、この企画が生まれました。

まず、熊本地震の被害を受けた地域に入り活動している NPO 法人 NICE の事務局長である上田英司さんより、現地の今の状況をお話しいただきました。続いて、学生ボランティアとして現地で活動してきた報告を中央大学 3 年生で「中央大学チーム熊本」のメンバーである青野大志さんよりお話しいただきました。

【参加者の声】

- * ボランティアを必要とする場所と、ボランティアをしたい人がいるのに、うまく連携できていない現実があることを知った。また、足湯の活動の話を聞いて、いろいろなボランティアの形があることを知り、私も現地の状況を学んでから、どうするのがよいかを考えたいと思った。
- * 直接復興に携わるというよりも、被災した方々へ継続した心の復興のようなものを行うことも大事だということを変更して感じた。私も東北・熊本等、必ず何かできることはあるはずなので、色々なことを学び、出来ることを探していこうと思った。
- * 現地目線での活動の様子が伝わってきた。短時間だったが、とてもリアルな報告だった。



車いす・高齢者疑似体験

このコーナーは、話を聞くだけでなく、何かその場で体験できることがあればいいのではないかと、そこからボランティアに興味をもってもらうことにつながれば、との思いから企画されました。八王子市社会福祉協議会・八王子市ボランティアセンターの協力を得て、キットの貸し出しや体験方法のご指導をいただきました。



まとめ

初めての試みでしたが、上記の「参加者の声」からは、参加に向けて背中を押すことができたり、ボランティアのイメージを変えるきっかけとなったことが伺えます。

また、出展団体同士の交流も行われ、後日、連携企画を実施することになったとの連絡があり、団体にとっても新たなつながりづくりの場となったようです。

「熊本地震についての報告会」や「車いす・高齢者疑似体験」においても、“現状を知る”“当事者の気持ちを考える”ことを通して、“自分にできることを考える”場になったのではないかと思います。

広報や運営方法についての課題も見えたので、首都大ボラセンの夏の恒例行事として認知してもらえるよう、来年につなげていきたいと思っています。

